

# おおづ

広報

# 9

SEPTEMBER 2021



Public relations  
OZU TOWN



5年前から地域の子どもたち、保護者の皆さんに顔を覚えてもらうために、旗振りを始めました。

広報 おおづ 2021 9

発行・編集 大津市 総合政策課  
〒869-1292 熊本市東区大津町大字大津 1233 番地  
TEL.096(293)3118 <http://www.town.ozu.kumamoto.jp/> ※広報のおおづは職場に配布して市民生活と情報交換の場を確保しています。

UD  
FONT  
見やすくて読みやすい  
ユニバーサルデザインフォント  
を採用しています。

## 一番大変なのは「家族」。 誰が支えるのが、周りが支 えていけないと。



おおづか けいこ  
大塚 敬子さん (室)

地域密着型通所介護「デイサービス祐」を設立して今年で10年。代表である大塚敬子さんは、認知症サポーターを養成するキャラバン・メイトの一員でもある。地域に密着して、介護の現場で支援を続ける大塚さんの思いにクローズアップする。

「介護をしている家族のケアこそ一番に」という大塚さんも、寝たきりになった祖父、認知症の母の介護の経験を通じ、家族だけで見ることの大変さを痛感している一人である。「デイサービス祐」を設立する前は、看護師として病院や訪問看護ステーションで働いており、大塚さんの母が認知症だと分かってからは休職し、介護をした時期があった。母にできることはなんでもやってあげたが、できることまで取り上げしまい、認知症の症状は回復するどころか悪化。当時は振り返る大塚さんは、「介護をする時に『これだけしてあげた』と思うことはやめよう」と、母ができることをサポートすることが大事だと考えるようになる。家族だけで介護をしていると、母が何度も同じことを聞いてきたり、物忘れが増えたりと衝突することが多かった。家族の大変さが分かるからこそ、家族が少しでも笑顔になれるよう介護に関わる専門職や地域を巻き込みながら支えていくことをうれしそうに語る大塚さん。

大塚さんだけが、熱い思いを持っていても周りが同じ思いでなければ、満足のいくサービスは提供できない。スタッフに対しても常日頃から大塚さんの思いを共有する場を設け、「自分の家族だったらどんな風に声を掛けてもらえたらうれしいか」と問う。利用者の人が何をしたら喜ばれるのかを第一に考え、「楽しかった」と言ったら家に帰ってもらいたいことを目標としている。

大塚さんは70歳になったら子ども食堂を開きたいと考えている。子どもから大人までみんなが立ち寄る場を作りたい。大塚さんの挑戦はこれからもたくさんの人と人をつなぎ、地域に広がる支援の輪を見せてくれるのではないだろうか。

の取組を推進する取り組み

### 今月の表紙

認知症サポーター養成講座を受講している人や認知症の人を支える人に出演してもらいました。オレンジリングは、「認知症の人を応援します」という意思を示す目印です。認知症サポーター養成講座の受講者に配布しています。

### からいもくん便り

登録方法: ozutown@gw.ansin-anzen.jp に空メールを送信してください (スマートフォンの場合は件名に任意の1文字「あ」などを入力して送信)。

### 大津町公式アカウント

友だち追加の方法  
●LINEの友だち追加の画面から [@ozutown] で検索する。  
●次のQRコードを読み込む。

### こいの声

ついに開幕した東京オリンピック・パラリンピック。開会式のピクトグラムの演技で知る種目の多さ。全ての競技を見ることはできませんでしたが、女子バレーボールの試合を見て、ふと中学時代の思い出がよみがえりました。圧倒的な強さで、常に上位にいる大津中学校。次元の違うスパイクやブロックを見せていたのが、古賀選手だと社会人になって知りました。当時、生で見た迫力のある試合の光景は一生忘れません。いつの日か、生で試合を応援できる日が来ることを切に願います (SU)